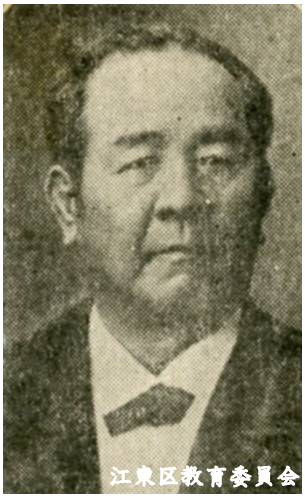
江東区役所２階「こうとう情報ステーション」　展示期間：令和２年 10 月下旬～11 月下旬

こうとうくきょういくいいんかいしょぞうしりょう
江東区教育委員会所蔵資料アンコール展示

深川区教育会長

渋沢栄一の演説記録



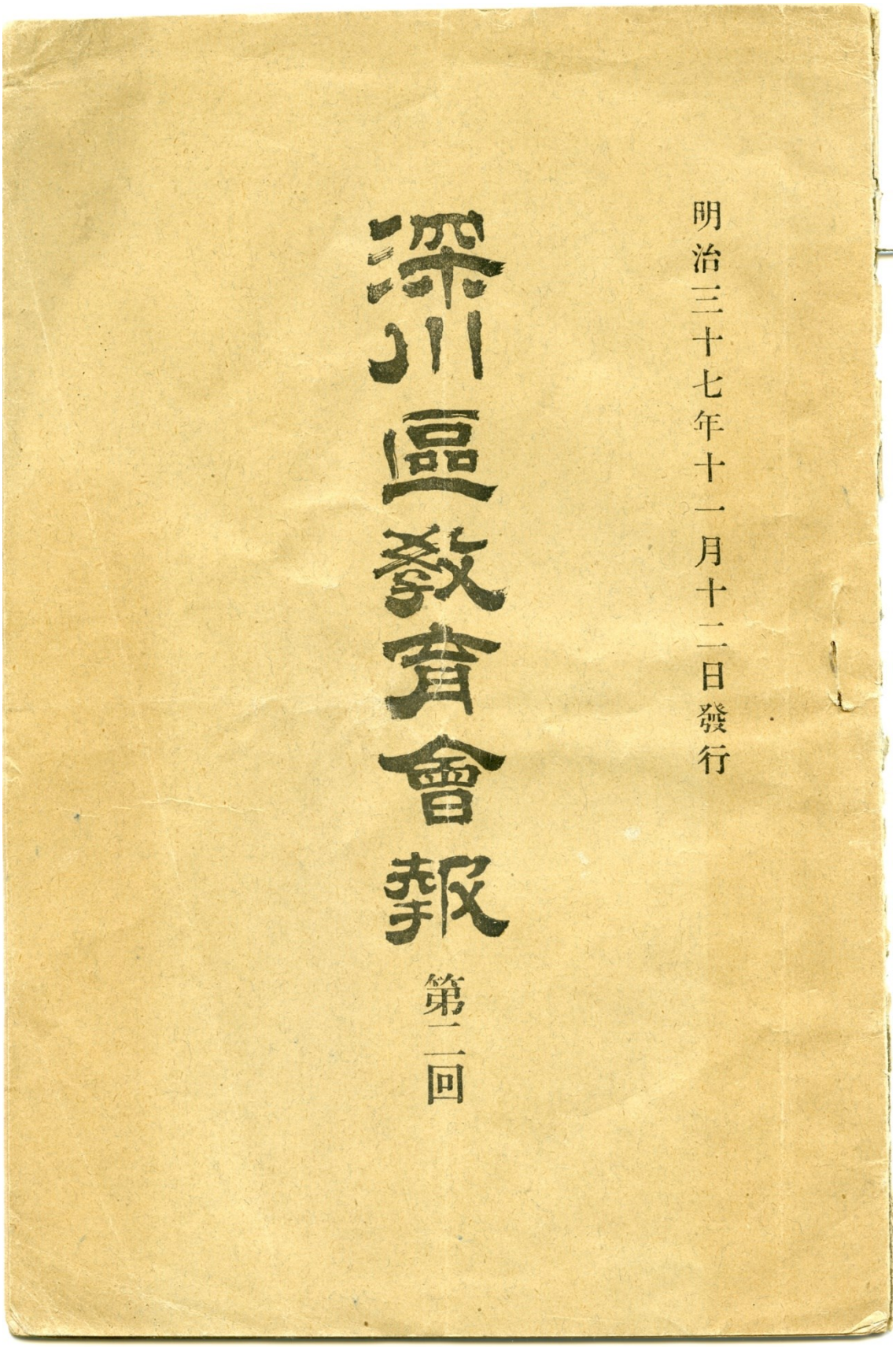
10 月 28 日から中川船番所資料館で開催される**特別展「渋沢栄一と江東　実業家栄一 揺籃（ハジマリ）の地」**を記念し、昨年に続き『深川区教育会報 第二回』［明治 37 年（1904）刊行］に掲載された渋沢栄一の演説記録をご紹介します。本記録は、明治 36 年 11 月 7 日午後 12 時 30 分より、霊巌寺（れいがんじ）（現江東区白河 1-3-32）で開催された深川区教育会第 3 回（秋季）総会での「開会の辞」を書き起こしたものです。演説では「**教育はただ知識を与えるというばかりでなく、責任を重んずることが第一**」と説き、「**教育は教場の中において成長するものでなく、家庭というものが教育については大なる責任をもつ**」という持論を展開しています。

深川区教育会とは

明治 35 年（1902）、深川区の教育向上をはかる目的で、同区有志により設立されました。渋沢栄一は同年 12 月 9 日に会長に就任し、明治 37 年 10 月に辞しています。

同会では**小学校児童・教育功労者等の表彰、教員の研究および講習会の開設、深川裁縫女学校の経営、他府県郡市町村の教育事業の視察調査、区内小学校児童の水泳場経営、会報の発行**などの事業を展開していました。大正 10 年(1921)12 月の段階で、会員数は 2,258 名を数えていました。昭和 11 年(1936)頃まで会の活動が確認できますが、その後を記した資料は現在のとろ確認できず、いつ頃解散したのかは不明です。

展示品である『深川区教育会報　第二回』には、明治 36 年 9 月 15 日から翌年 10 月 1 日までの活動記録が掲載されています。



『深川区教育会報 第二回』

（深川区教育会、明治 37 年）

如し

開會の辭

會長　男爵澁澤　榮一君演說

佃速記事務所員　速記

皆樣御苦勞でございます、今日は當區教育會の秋期總會でございまして諸君の尊臨を請ひました譯でございます、茲に會長として私から一言開會の趣意を申述べることに仕ります。會務の報告に付きましては既に御手許に報告書を差出してございますから大抵御了意下すつたことゝ存じまするのでございます、爾來本會をして成得べきだけ區内教育に補益を多からしめたいと云ふことで、評議員或は幹事理事諸君と共に精々盡力して居りまするので、本會が追々區内教育に益を增すであらうと云ふことは諸君に於て十分御承知下さることを願ひます、デ會務の報告は幹事から申上げることに致しまして私は略して置きます。

而して今日の總會に當つて教育上に關し學說上若くは經驗上會員外の諸大家に請ふて、成べく諸君の御參考に供したいと云ふ考でソレ〳〵御願ひしましたが、一二の御方が病氣等の事故に依つて臨席せられませぬ、去りながら此處に記載してありまする通り田口卯吉君清水晴風君が段々有益なる御話をなさる筈でございますから十分御聞取り下さるやうに願ひます。

私は先づ開會の辭として前座代りに一言愚說を申上げて見やうと考へまする、此事は前回にも申上げましたが、教育のことは教育專門の人のみが之に力を盡すべきものでない、教育當務以外の人が矢張り教育に心を用ゐるの必要を感ぜしめなければ此教育をして效多からしめることは出來ない、故に斯く申上げる私なぞは教育專門でもなければ、寧そ教育には緣遠い人間であるけれども、不肖ながら御推選下されば敢て憚らず會長の席を汚し、此席へ出て御話を申上げるに躊躇せぬ、凡そ國民教育と云ふものは段々進んで行つたならば限りがない、勿論上等の教育は必要でありまするけれども、併し一般から考へましたならば世の中ををしなべて皆大學者にしたいと云ふことを望むことは出來ない、故に今日の學生が例へば尋常小學からして進ん

「開会の辞（渋沢栄一君演説）」

※冒頭のみ

演説文の内容（要約）

私はまず開会の辞として、前座代わりに一言愚説を申し上げようと考えます。教育のことは専門家だけではなく、教育に従事しない人が教育に心をくだかないといけないと思います。

教育はただ知識を与えるというばかりではなく、責任を重んずることが第一であります。このことは誰でも分かっている話しで、国に対して租税を納めることや借りがあったら返すこと、約束を破ってはいけないことなど、責任ということは個人より一家一郡一市一国とその程度は限りないものですが、こんにち我が国の現状をみれば、いまだに西洋に比べ遜色があると言わざるをえません。小学校の課程にはありませんが、校長や担当教員がこの点に留意することを望むのであります。

もう一つは公徳（こうとく）（社会生活をする上で守るべき道徳）をもつことです。日本全般の状況として、世間での人付き合いが下手で行儀も悪いというところがあります。日本人は昔から日本魂とか大和民族だといって誇っているけれど、この点については大いに恥じねばならないと思います。公徳の進んでいるイギリスやドイツに比べ、日本ではほとんど見ることができない有り様であります。子供のうちから養成するということは、未来において日本人のいわゆる品格を高める要点であろうか思うのであります。

それで、ただいま申し上げた責任を重んずるとか公徳を重んずるとかいう事柄は決して学校の科目に加えてほしいということではございません。けれども教育がだんだん進むにしたがってそういう注意をはらっていただきたいと思うのです。このことは私が望むばかりではなく、皆様も必ずご同意くださることと思います。開会の辞として一言私の意見であるところを述べさせていただきました。

（拍手）